

# HELLO PSJ

研究ってどこでもできますね。

東京慈恵会医科大学薬理学講座 川村 将仁

皆様初めまして、川村と申します。2年間のアメリカ留学が終了し、本年より慈恵医大に勤めております。どこかで何かご縁がありましたら声をかけてやってください。HELLO PSJでは留学の体験等を自由に書いて良いと伺いましたので、僕の留学体験がどのように役立つかは分かりませんが、少し思い出を書かせていただきたいと思います。

僕が留学に行っていた大学は、アメリカのコネチカット州ハートフォードという町にある Trinity College という所で、そこで Susan Masino 先生の下でケトン食療法による抗けいれん作用に対する細胞外 ATP およびアデノシンの関与について、主としてスライス・パッチクランプ法を用いた電気生理学的手法による研究を行ってきました。ハートフォードという町はアメリカ人の友人に言ってもどこだっけ？と聞かれるような所なので少し紹介しますと、大体ニューヨークとボストンの中間に位置する町です。ですから大リーグのファンは大学を真っ二つに分けてヤンキースファンとレッドソックスファンが混在していたりします。そんな町なので、当然僕も留学に行くまでは存在すら知らなかったのですが、行ってみると、まあ雪国の田舎町というような所でした。Trinity College は研究がさかんな大学というわけではありませんでしたが、立地の良さもあり、定期的にニューヨークやボストンの大学から講演に来られる先生が多く、様々な研究の話に触れられる機会に恵まれた点で良い所でした。

2月のある日、そのハートフォードに向かい旅立ったのですが、シカゴの空港に着いてみたら雪

で空港がストップ、6時間近く待たされてハートフォードの空港に着いた時は夜中の1時を回っていて、そこからボスの家までさらに車で移動と、とにかく行くだけで疲れたというのが正直なところでした。そのボスの家は森の中にあるのですが、まあアメリカの広大な森っていうのは、昼間は良くても、夜になると街灯もなければ対向車もいないせいでかなり怖いものがあります。思わず「ブレア・ウィッチ・プロジェクト」みたいで怖いと言ったらボスがケラケラ笑っていたのを覚えています。ちなみに話は横道に逸れますが、アメリカでは飛行機のトラブルは日常茶飯事とは言え、どうもトラブルに巻き込まれやすい人とそうでない人のタイプはあるみたいです。初っ端から6時間も空港で待たされた僕は、周りからは間違いなく「そっち側」の人間という烙印を押されてしまいました。ところが、ボスも「こっち側」の人間だったのでまあ大変、僕とボスの二人で旅行しようものなら2時間くらいの遅延は当たり前、欠航なんてなんのそのと、留学中の2年間で飛行機のトラブルはお手の物となってしまいました。まあ、そんな飛行機での苦労も今となっては良い思い出…になるわけは全くなく、今でもとっとと忘れてしまいたいです。これから留学される方々はそんな苦労をされないようにお気を付けください（気を付けてどうにかなるものでもありませんが）。

話は逸れてしまいましたが、苦労して到着した後の生活は割りとのんきなものでした。着いた当初は実験機器のセットアップも出来ていなかったもので、最初の2ヶ月あまりは足りないものを注文



写真1. 雪国と著者

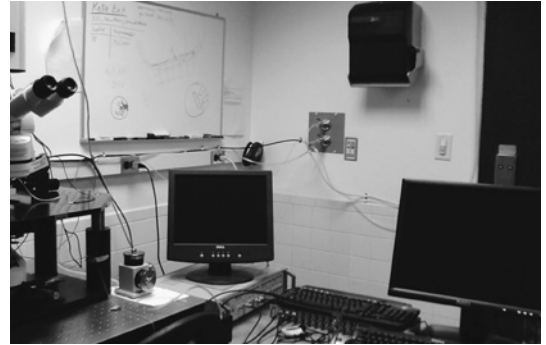


写真2. 穴倉

しては、せっせとセットアップという感じのどかに過ぎていきました。4月になり実験を開始してから、アメリカでの生活に慣れたというもあり、さらにのどかで平穏な生活をしていました。朝起きてご飯を食べる→研究室に行ってスライスを作成→穴倉（実験機器のある部屋をそう呼んでいました）に籠もってパッチ→家に帰ってご飯→データの解析→寝る→振り出しに戻る。そんな生活をしていたある日、いつものように穴倉でパッチをしていた時に不意に口をついて出た言葉は「日本にいる時と変わらねえ！」という自己突っ込みでした（思わず目の前の顕微鏡にまで突っ込みを入れてパッチが外れました）。もちろん、多くの外国人研究者の方々と会い様々な考えに触れることができるなど海外留学に行くメリットは承知した上での話ですが、こと実験をやるということに

関してだけは、ラボに籠もってコツコツやるしかないわけで、アメリカにしようが日本にしようがやっていることは全く変わらないのだなっということに唐突に体感したのです。逆に言えば、研究ってどこでもできるんだなっという、非常に当たり前のことをその時になってやっと体で理解できたのです。

他の先生方が書かれたHELLO PSJを読んで、僕も同じように何かしらこれから留学される方にアドバイスのようなものを送りたいとも思ったのですが、大したことは思いつきませんでしたので、僕がアメリカで体感できた「研究はどこでもできるのだから、安心して旅立っちゃってください」という言葉を最後に締めたいと思います。どうもありがとうございました。